第1回 病院船の活用に関する検討会 議事要旨

1. 検討会の概要

日 時: 令和2年9月29日 火曜日 15時00分~17時00分

場 所:中央合同庁舎第8号館3階 災害対策本部会議室

出席者:福和座長、小井土座長代理、池田委員、庄司委員、高橋委員、中田委員、中出 委員、半田委員、山口委員、青柳内閣府政策統括官、村手内閣府大臣官房審議官

※出席者には、WEBによる出席を含む。

【オブザーバー】島田内閣府政策統括官(防災担当)付参事官(災害緊急事態対処担当) 永田厚生労働省医政局地域医療計画課救急・周産期医療等対策室長 坂本防衛省整備計画局防衛計画課長 峰本国土交通省海事局安全政策課長 益本海上保安庁総務部政務課海上保安企画官

2. 議事概要

事務局説明の後、質疑応答を交え意見交換を行った。委員からの主な意見は次のとおり。

- (1) 陸上医療機関との役割分担 (病院船の果たす機能) について
 - 船舶活用の大きなメリットは、陸上交通が寸断された時に被災地まで迅速に到着できるという点、食事や水や電気も含め自己完結できる施設である点、規模を自由に設定できる点。
 - 受入れキャパシティを大幅に広げることができ、発災時の負傷者搬送に活用できるのではないか。
 - 災害のみならず、新型コロナウイルスのような新たな感染症禍でどのように活用できるかも併せて盛り込んでいきたい。
 - SCU や病院避難の入院患者受け入れ、避難所等、様々な役割に柔軟に対応できるスペックを有しておくべき。
 - 船舶は県をまたぐ可能性があるため、国直轄の指揮系統確立が必要。病院内部の 指揮系統に関しては、「船舶医療活動マニュアル」のようなものが重要。
 - 陸上で病院が孤立した際に病院自体を避難する場所として活用することが有効ではないか。

(2) 発災時の要員の確保について

- 運航要員の他、医療従事者や医療スタッフの支援者が必要。
- 病院船の母港についても検討が必要。
- 短期間でどのように人員を集めるかが最も重要。船舶での活動に際しては登録や 訓練が必要になるのではないか。
- 医療従事者と運航要員の確保は最大のネックになる。
- スタッフについては、病院避難した場合は、当該病院の医療従事者に病院船の医療スタッフとして活動してもらうのがよいのではないか。
- 災害時などに招集したとしても、初めての船をいきなり運航することは難しく、 訓練や待機フェーズも必要である。運航要員の待機も含めて制度化・仕組化して

いく必要があるのではないか。

(3) 平時の活用方策

- 平時の活用について、以前日本赤十字病院で病院船を2隻保有していた時には、 有償で日本郵船に貸し出して、郵便事業に活用してもらっていた。
- 平時の活用について、災害医療訓練船や国際緊急援助船等、医療に特化した活動 をするように検討した方がよい。
- 病院機能に特化するか災害時の海の拠点にするかで、平時利用の活用の場が異なる。

(4) コスト面・機能面を含めた病院船の必要性のロジックモデル

- 最近の客船では、キャビンまたはゾーンごとに陰圧や陽圧にすることは可能。港の中であれば船から海底に固定具を立てて動揺を抑えることは可能。
- 一般船舶は、復原性や防火・脱出などの安全基準を十分に満足して設計されるが、 万一、事故が起きて退船を余儀なくされた場合には、速やかに乗客・乗員を避難 させることができるような思想で設計されている。病院船は、患者を乗船させる ため、速やかな避難が困難なことを想定するなどの検討が必要。
- 船舶は基本的に感染対策には不向きであるため、建造の段階からゾーニング、要員や患者の導線や空調等の工夫が必要。
- 建造の段階からゾーニング、要員・患者の導線や空調等を工夫すれば感染対策は 可能。
- 病院施設を建造する上では、構造・設備が可変的であることが重要。
- 客船の分類に当たる船舶は毎年1週間程度ドックインしなければならない関係で、 複数の船でドックの時期をずらす必要があるので、運用は留意しないといけない。
- 船舶所有者により適用される法令が異なるため計画の際には留意が必要。

(5) その他

- 船舶の運航に必要な物資だけでなく医療活動に必要な物資の補給、医療廃棄物処理、また医療機器や船舶のメンテナンス方法など、運航及び医療活動を支援するため病院船の周辺環境についても、論点に加えるべきではないか。
- 病院船とは、衛生管理の面を含めて病院としての機能を果たすものでなければならず、医療ユニットを積み込めば良いというものではない。
- へリ等での搬送活動と病院船が連携することを考えると、例えば港まで到着する のがどれくらいになるのかという具体的な検討が重要。また、入港地や導線についても具体的な検討が必要。
- 病院船よりも陸上の病院で工夫する方が大事なのかという検討も、考慮しておく 必要がある。

以上